姫様！脱出を

西崎想

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
姫様！脱出を

【Ｎコード】
Ｎ０２６９ＢＡ

【作者名】
西崎想

【あらすじ】
ヨシュアはミランゼ国の王女様。今日も人の役に立っていた。しかしヨシュアの周りに良からぬ思いを抱くものが……。

ヨシュアの一日一善

「よし、これでいい」
木と木を繋いだ少女がそういう。
「ヨシュア姫様、ありがとうございます」
老木の修復を終えた初老の男性がありがたそうにお礼を言う。
「気にするな、私は、して当たり前の事だと思う」
そう言ったヨシュアは老人の肩を優しく叩いた。

彼女は、ヨシュア＝ミランゼ。
アンドル星のミランゼ王室の第一王位継承者だ。
はねっかえりな所が玉にきずだが、優しい心根の持ち主で、民にも好かれている。

彼女は、街によく行く。
今日もそれは一緒だった。

「マーク、どうだ？母親の具合は」
「ヨシュア、来てくれたのか！」
マークと言われた少年が王女を見て歓喜の声を上げた。
「私の薬、効いたか？」
そう、ヨシュアは恐々聞いた。マークは大きく頷いた。
「それはもう！具合は大分良いみたいだよ」
ヨシュアはほっと溜息。

「そうか……よかった」
「ヨシュア、本当にありがとう！恩に着るよ」
「いや、そんな」

ヨシュアは少し照れた。
「じゃあ、私は行くよ」
「うん、ありがとう、ヨシュア姫様」
大きく手を振って見送るマーク。
ヨシュア姫も手を時々振る。
「さあ、城に帰るか」
岐路に着いたヨシュア。

ヨシュアの謀反

城に帰ると、ヨシュア王女は何か城内に不穏な動きがある事を聞いた。

「そうか……ありがとう、気を付ける」

そう言うと、ヨシュアはその家臣を労わった。

何かが、裏工作をしているようだ。

しかし、誰が首謀者かは、まだ解らない。

―今は動けないな……、

そう、ヨシュアは思った。

ヨシュアには、ルースという弟がいる。

王は、王位継承をどちらにしようか迷っている。そこに、目を付けた権力者たち。

ヨシュアはルースとの仲を気にしていたが……、

「姉さま！」

青い目をしたルースがヨシュアに駆け寄った。

「周囲の者たちの考えが解りません。私は姉さまと仲良くしたいのに」

「ルース……」

ヨシュアはルースの頭を優しく撫ぜた。

「今は、耐えないと……お前も大変でしょうが……」

「はい……姉さま……」

涙ぐむ王子。

その夜、
ヨシュア姫は、側近に、家臣の動きを探れと命令した。
静かに夜は更けていった。

一週間後、

ルースの側近が殺された。
衝撃は、その日のうちに広まった。

「みな、静まれ」
ヨシュアはそう言って、浮足立つ家臣を諌めた。

自分の側近は無事なのか……、
ヨシュアは気になっていた。

「姫様」
「どうだ？エスはいたか」
「いいえ……姫様、貴方の身が危険だと思うのですが」
ヨシュアは首を振った。
「私は心配無用だ。お前も気をつけてくれ」
「は……」
その側近は神妙に身を引いた。

「ヨシュア様！」

その突然の声にヨシュアは驚いた。
「ああ、びっくりした。……どうしたんだ」
「そ、それが……」
「それが、こういうことです。王女」
ルースの側近がヨシュアに近づいてきた。

「姫様！」
「私は大丈夫だ、……どうした？ロス」
「姫様、貴方の命で、王子の側近を殺したという噂がありましてな」
「私が？何のために？」
「……王はルースに王位を渡すそうで」
家臣は、みな驚いていた。

「静かに……それで？」
「貴方の……その髪が、側近の手に握られてましてね」
「私の？」

「そうです」
王の親衛隊がヨシュアを囲む。
「なんだと！姫様、逃げてください！」
「王の親衛隊が、私を囲むとは……」
失望感でいっぱいのヨシュアをみて、ルースの側近が言った。
「王女、来ていただきましょうか」

投獄

カシャーーン……！

城の牢獄、
捕えられたヨシュア王女は、静かに椅子に座った。

ふう……とため息を一回つくと、天井を見た。

高くはない、ただ抜け出すのは無理みたいだった。
「とりあえず……待つか」
ヨシュアは落ち着いた顔をした。

それから、数日後……。

「王女！」
そう言って駆けつけたのは、王女の世話役のソケットだった。
「ソケット！」
「私がいながらこんな事になってしまって……許してください」

王女は微笑みながら、
「私はいい……ルースは？」
「あれから、ルース様も貴方様を外に出そうと、必死に……」
「そうか……」

ヨシュアはソケットに言った。
「城の権力争いは、しれつになってきている、ソケット。頼んだぞ」
「はい、姫様も体をいたわってください」

ソケットは去った。

また一人になったヨシュア。

少し寂しいが、そんな事、王女は耐えた。

それが、王女の取るべき態度だったのだ。

脱出

「姫様！」
そう言って質素なヨシュアの部屋まで来たのは老将軍。

「カシ！来てくれたか。どうだ？外の様子は」
「姫様がいないと、ルースの家臣がうるさいのなんの」
「そうか……まだ、あれはないか？」
そう言われると、カシは首を振った。
「いや、そこまでは、まだです」
「そうか……監視、怠らないでくれ」
「はっ」

ヨシュアは、ここから出られる時が熟すのを待っている。
それは、何時になるのか……。

それは、意外に早かった。

「姫様！」
「カシ！」
「グリシオがついに謀反を起こしました！」
「そうか、ルースは大丈夫なのか？」

「はっ、姫様の命で、王子をかくまっていましたから」

「鍵は、あるか？」
「はっ、ここに」
牢獄の鍵をヨシュアに渡した。

カチャカチャ

ギィ……、

「さあ、行きましょう、姫様なら、この逆境、超えていくことを確信しています」

「よし！行くぞ」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0269ba/

姫様！脱出を

2012年1月6日20時52分発行